

世界に一つの「おくすりてちょう」配布

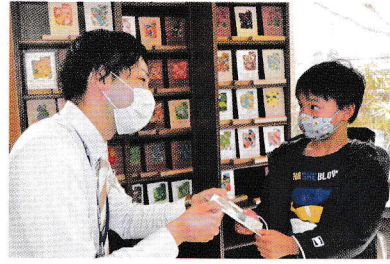
障がいのあるクリエイターがデザイン

B

軽井沢病院が4月1日から、世界に一つの「おくすりてちょう」の配布を始めた。町内のアトリエ「RATTA RATTARR (ラッタ ラッタル)」で活動する障がいのあるクリエイターによる手づくりで、すべて違うデザイン。同アトリエの活動に共鳴した稲葉俊郎院長が、「医療、福祉、芸術を横断する取り組みを」と制作を依頼した。

500部作ったうち、100冊を同病院で無償配布。残りの400冊は4月中に町内医療機関、薬局など23カ所で配布する。

A4の用紙を半分に切って付け足して使えるつくり。稲葉院長は「やさしい言葉や笑顔もある意味おくすり。それぞれが思うおくすりを書いて使ってほしい」と提案している。夫婦でてちょうを受け取り



4月1日、軽井沢病院の職員が来院者に手渡し。てちょうは一つの共通のテーマをもとに、クリエイターがデザイン。「どんなテーマだったか想像してほしい」と稲葉院長。

にきた、南ヶ丘の70代女性は「使うのがもったいないほどきれい。持ってるだけで気分が晴れやかになる」と、喜んでた。



南地区児童館長の佐藤美好きは「コロナ禍ではあるけれど、できる形で、異世代交流が進むよう努めた」。地域のお年寄りからしめ縄づくりを習ったり、合同で防災訓練を行う予定だ。

C

異世代交流目指し 公民館と児童館を一つの建物に

「ほっち交流館」開館

公民館と児童館の機能を合わせた南地区複合施設「ほっち交流館」が完成し、3月30日開館した。お年寄りと子どもの異世代交流ができる場として、町が建設を進めていた。

建物は木造平屋で、建築面積は494㎡。遊戯室や図書室、大広間などで構成。災害時には避難所としても使用する。ともに1970年代に建てられた公民館分館、南地区児童館の老朽化にともない、児童館跡地に新設。建設費は2億2642万円で、そのうち2475万円は国や県の補助金。公民館分館は今後、取り壊して駐車場として整備。屋外遊具も22年度中に改修する。

県道信濃側から西側が4月11時半、17時までの間に、29日、23日、除。渋野長野県にするよう。賀橋の架業全てを予定し

